

「チーム学校」による不登校の未然防止と早期発見・早期対応に向けて

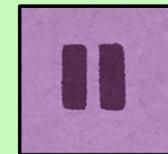
ーアセスメントツールの活用を通してー

研修の目的

- ・「チーム学校」による不登校の未然防止と早期発見・早期対応に向けた支援の方法について理解を深める
- ・アセスメントツールを活用し、子供のSOSサインについて共通理解を図り、早期対応が必要な子供を発見するとともに、その後の支援について見通しをもつ

研修の内容

- 1 不登校の現状について
- 2 「チーム学校」による支援について
- 3 アセスメントツールの活用方法について
- 4 不登校対策・対応に役立つ資料について



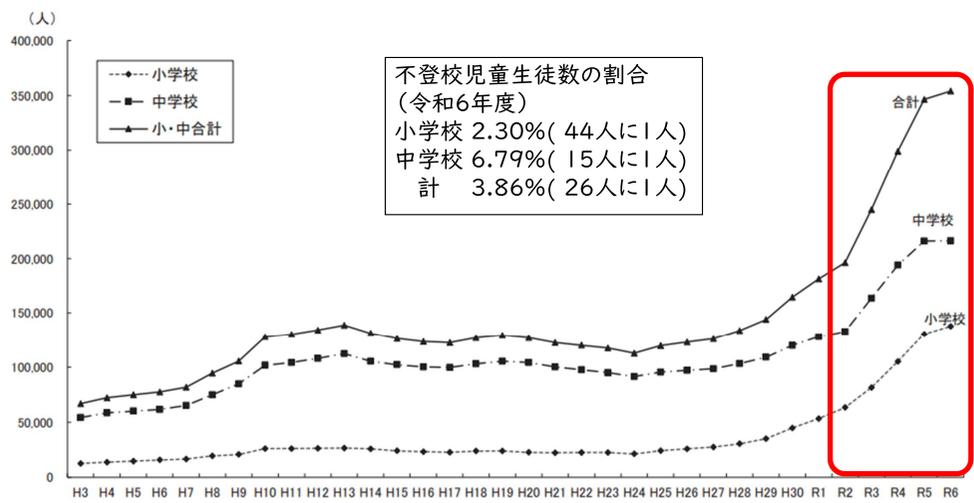
このアイコンが上部に表示されているスライドでは、動画を一時停止して、演習を行います

不登校の現状について

不登校とは

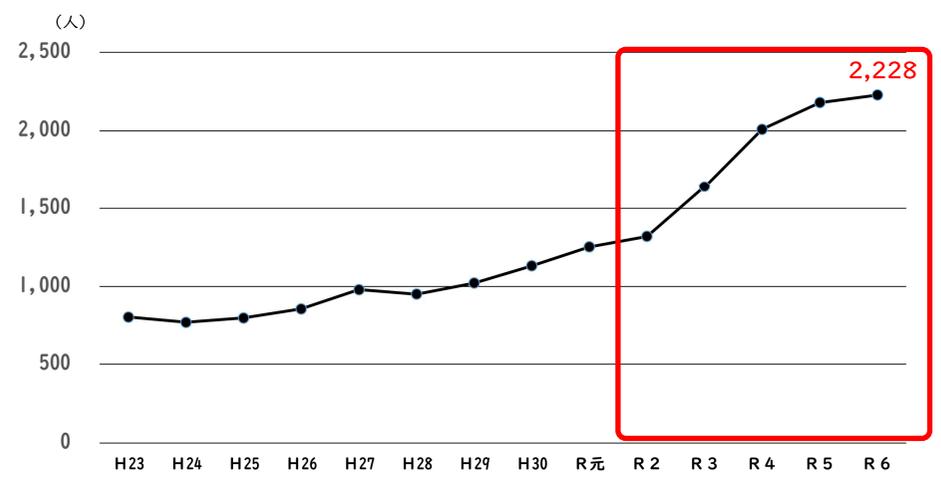
「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」

小・中学校における不登校児童生徒数の推移グラフ(全国)



「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」

小・中学校における不登校児童生徒数の推移グラフ(佐賀県)



「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」平成23年度～平成27年度
「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」平成28年度～令和6年度分を基に作成

不登校の現状

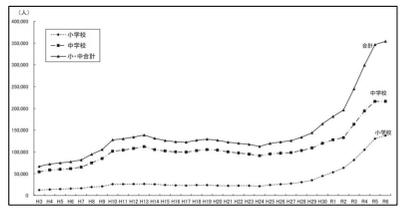
全国

諸課題調査 全国

佐賀県

諸課題調査 佐賀県

不登校の現状について



(1)不登校児童生徒数(県内国公私立の小・中・高等学校) (単位:人)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小学校	403 (8.7)	549 (12.1)	669 (14.9)	785 (17.7)	858 (19.7)
全国国公私立	(10.0)	(13.0)	(17.0)	(21.4)	(23.0)
中学校	917 (38.1)	1,091 (44.8)	1,341 (55.6)	1,395 (58.3)	1,370 (57.7)
全国国公私立	(40.9)	(50.0)	(59.8)	(67.1)	(67.9)
小・中学校計	1,320 (18.8)	1,640 (23.5)	2,010 (29.1)	2,180 (31.9)	2,228 (33.2)
全国国公私立	(20.5)	(25.7)	(31.7)	(37.2)	(38.6)
高等学校	298 (13.0)	404 (18.1)	429 (19.6)	550 (25.2)	465 (21.1)
全国国公私立	(13.9)	(16.9)	(20.4)	(23.5)	(23.3)

不登校児童生徒数や理由別長期欠席者数等を詳しく確認することができます

2 「チーム学校」による支援について

2 「チーム学校」による支援について

「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(COCOLOプラン)



児童生徒が不登校となる前に、心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する

「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(COCOLOプラン)

2 「チーム学校」による支援について

不登校となる前の支援の必要性

登校していても支援が必要な子供が存在する

- ・ 日常的な関わりが不登校の未然防止につながる
- ・ 早期に支援を受けた子供ほど登校状況が改善する傾向が見られる

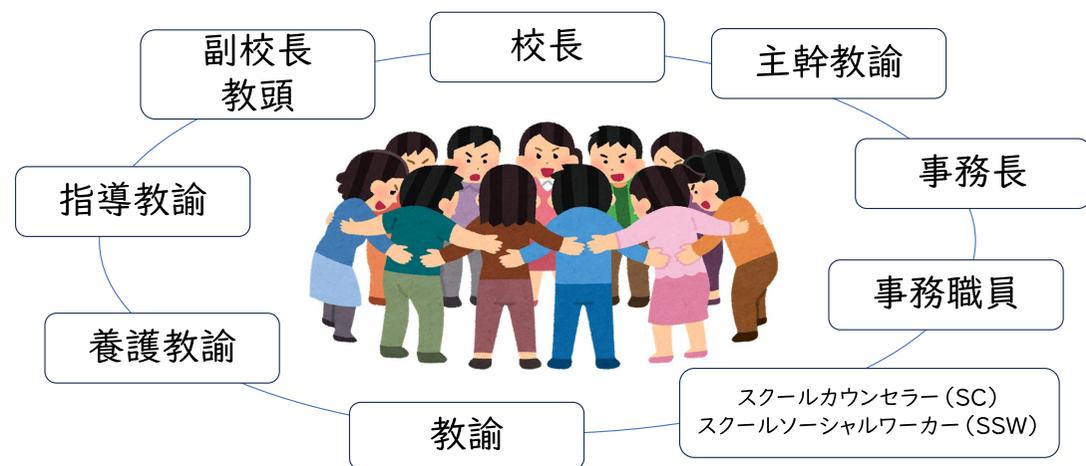
「不登校の要因分析に関する調査研究報告書」「不登校傾向にある子どもの実態調査」を基に作成

「チーム学校」

校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校

『生徒指導提要』p.70

「チーム学校」のメンバー



『生徒指導提要』p.69を基に作成

「チーム学校」で支援するメリット

- ・ 多様な専門職との連携・協働による支援の幅の広がり
- ・ 教員の負担軽減
- ・ 継続的・組織的な支援体制の構築
- ・ 保護者との信頼関係の構築



『生徒指導提要』を基に作成

「チーム学校」による 不登校の未然防止と早期発見・早期対応に向けて



- ・ 子供のSOSサインに気付き、キャッチする
- ・ できる限り早期に関係する教職員で情報を共有する
- ・ 気になる子供の状況に応じて関係する教職員で対応する

『生徒指導提要』を基に作成

3 アセスメントツールの活用方法について

アセスメントツールを活用することの効果

- (1) 学級全ての子供の状態を共有できる
- (2) 早期対応が必要な子供を発見できる
- (3) 早期対応が必要な子供に対する適切な対応を検討し、関係する教職員で役割分担ができる



不登校の未然防止と早期発見・早期対応につながる

(1) 学級全ての子供の状態を共有できる

3 アセスメントツールの活用方法について

(2) 早期対応が必要な子供を発見できる

3 アセスメントツールの活用方法について

状態 2

- ・週3日以上欠席
- ・登校できている、保健室や別室を週半分以上利用

対応例

- ・子供に声を掛け、じっくりと寄り添う。
- ・保護者に、子供の様子が心配であることを伝え、家庭での様子を聞く。
- ・欠席理由、対応状況等を管理職に報告する。
- ・支援チーム会議を開催する。



状態 3

- ・登校できていない
- ・学校以外の場所（教育支援センター・フリースクール等）には定期的に通うことができている

対応例

- ・子供が通える場所に教職員が出向いて学校の様子を伝えたり、学習支援を行ったりするなどして、再登校に向けた準備を行う。
- ・子供の思いを確認したあと、時差登校や別室登校など無理のない登校方法を提案する。



状態 4

- ・登校できていない
- ・学校以外の場所（教育支援センター・フリースクール等）へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由にできている

対応例

- ・教育支援センターや別室登校、放課後登校や行事への参加などを本人や保護者に勧める。
- ・無理強いせず、少し間をおいて登校や行事への参加などを再度勧める。



状態 5

- ・外出も登校もできていない
- ・家では落ち着いた生活ができている
- ・家族と関わる事ができている

対応例

- ・子供の興味に従って、散歩や買い物など、できる限り外出を勧める。
- ・何が気になって外出できないのかを聞くなど、相談にのるとともに、家でできる活動も考える。



状態 6

- ・ 外出も登校もできていない
- ・ 家ではほとんど自室から出ない
- ・ 家族と関わることができていない
- ・ 心理的に不安定である
- ・ 生活リズムの乱れが大きい

対応例

- ・ 十分な睡眠時間や食事の確保など、生活の安定を最優先とする。
- ・ 医療や福祉などの専門機関との連携を図る。



状態 1 ~ 6 の子供の氏名を記入する

状態	状態0	状態1	状態2	状態3	状態4	状態5	状態6		
外出状況	外出できていない	外出できている	週1~2日欠席	週3日以上欠席	登校できていない	登校できていない	登校できていない		
登校状況	毎日登校できている	毎日登校できている	週1~2日欠席	週3日以上欠席	登校できていない	登校できていない	登校できていない		
状態の詳細	<p>SOSサイン (※1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の不調を訴える ・ 学習が遅れている <p>SOSサインなし</p> <p>SOSサインの有無を確認</p> <p>SOSの要因を3つの観点から検討</p> <p>SOSサインあり</p> <p>SOSの要因 (3つの観点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理面: 「学力・学習」「情緒」「社交性」「集団行動」「自己有用感」「自己肯定感」「関心」「意欲」「過去の経験」 身体・健康面: 「睡眠」「食事」「運動」「疾患」「体調不良」「特別な教育的ニーズ」 社会・環境面: 「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」「家庭背景」「地域での人間関係」 	<p>SOSサインあり</p> <p>SOSの要因 (3つの観点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理面: 「学力・学習」「情緒」「社交性」「集団行動」「自己有用感」「自己肯定感」「関心」「意欲」「過去の経験」 身体・健康面: 「睡眠」「食事」「運動」「疾患」「体調不良」「特別な教育的ニーズ」 社会・環境面: 「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」「家庭背景」「地域での人間関係」 	<p>週1~2日欠席</p> <p>選別や早退がある</p> <p>保健室や別室を退室分以上利用している。</p> <p>保健室や別室をしばしば利用している。</p>	<p>週3日以上欠席</p> <p>学校以外の場所(教育センター・フリースクール等)へ定期的に通うことができる。</p> <p>学校以外の場所(教育センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由に行っている。</p>	<p>登校できていない</p> <p>学校以外の場所(教育センター・フリースクール等)へ定期的に通うことができる。</p> <p>学校以外の場所(教育センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由に行っている。</p>	<p>登校できていない</p> <p>家でほとんど自室から出ない。</p> <p>家族と関わることができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>	<p>登校できていない</p> <p>家でほとんど自室から出ない。</p> <p>家族と関わることができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>		
子供の氏名	いちろう ひろふみ ともふみ	どの観点から対応を始めるか検討	心理面の対応から	社会・環境面の対応から	身体・健康面の対応から	かつみ こういち	ちほ るみこ	みのる	りな

子供は、どんな気持ちで登校しているのかな?

悩みを抱えているのかな?



毎日登校できている子供の中に...

仮面登校

授業不参加型

基本的には教室で過ごすものの、みんなとは違うことをしがちで、授業の活動に参加している時間が少ないケース



授業参加型

基本的には教室で過ごし、みんなと同じことをするが、心の中では学校に通いたくない、学校が辛いと感じているケース

学校に行きたくないな。学校が辛いな。



諸富祥彦著『学校に行けない「からだ」』を基に作成

ポイント SOSサインは何らかの対応が必要な可能性があります

**SOS
サイン**

- ・身体の不調を訴える
- ・やる気がない
- ・学習が遅れている
- ・いつも眠そうである
- ・友達とのトラブルが多い
- ・ルールを守らない など

五十嵐哲也ら編著『学校で気になる子どものサイン』を基に作成

演習 2

状態0 (SOSサインあり) の子供をアセスメントする

状態	状態0		
外出状況	外出できている		
登校状況	毎日登校できている		
状態の詳細	SOSサイン (※1)	・身体の不調を訴える ・いつも眠そうである ・やる気がない ・友達とのトラブルが多い ・学習が遅れている ・ルールを守らない など	
	SOSサインなし	SOSサインあり	
状態の詳細	SOSの要因を3つの観点から検討	SOSの要因 (3つの観点から)	
		心理面 「学力・学習」「情緒」「社交性」 「集団行動」「自己有用感」 「自己肯定感」「関心」「意欲」 「過去の経験」	身体・健康面 「睡眠」「食事」「運動」 「疾患」「体調不良」 「特別な教育的ニーズ」
子供の氏名	どの観点から対応を始めるか検討	心理面の対応から	社会・環境面の対応から
		さとし りょう たかお	きみ ともこ なおき
		身体・健康面の対応から	ひでこ なおみ ようへい

演習 2

状態0 (SOSサインあり) の子供のアセスメントの手順

- ① SOSサインの有無を確認
- ② SOSの要因を3つの観点から検討
- ③ どの観点から対応を始めるか検討
- ④ 優先的に対応する子供の選定と対応策の検討



演習 2

ポイント 子供のSOSの要因を、関係する教職員で心理面、身体・健康面、社会・環境面の3つの観点から検討しましょう

SOSの要因 (3つの観点から)

心理面

「学力・学習」「情緒」「社交性」
 「集団行動」「自己有用感」
 「自己肯定感」「関心」「意欲」
 「過去の経験」

身体・健康面

「睡眠」「食事」「運動」
 「疾患」「体調不良」
 「特別な教育的ニーズ」

社会・環境面

「児童生徒間との関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」
 「家庭背景」「地域での人間関係」

演習2 (例) さとしさんに関するアセスメントの手順

3 アセスメントツールの活用方法について

- ① SOSサインの有無を確認する
- ② SOSの要因を3つの観点から検討する
- ③ どの観点から対応を始めるか検討する
- ④ 優先的に対応する子供の選定と対応策の検討

SOSサイン

- ・やる気がない
- ・学習が遅れている
- ・友達とのトラブルが多い
- ・いつも眠そうである
- ・身体の不調を訴える
- ・ルールを守らない など



演習2 (例) さとしさんに関するアセスメントの手順

3 アセスメントツールの活用方法について

- ① SOSサインの有無を確認する
- ② SOSの要因を3つの観点から検討する
- ③ どの観点から対応を始めるか検討する
- ④ 優先的に対応する子供の選定と対応策の検討



演習2 (例) さとしさんに関するアセスメントの手順

3 アセスメントツールの活用方法について

- ① SOSサインの有無を確認する
- ② SOSの要因を3つの観点から検討する
- ③ どの観点から対応を始めるか検討する
- ④ 優先的に対応する子供の選定と対応策の検討

食欲がないことも、心理面が関係しているかもしれません。(養護教諭)



演習2 STOP II

3 アセスメントツールの活用方法について

状態0 (SOSサインあり) の子供の氏名を記入する

状態	状態0	状態1	状態2	状態3	状態4	状態5	状態6
外出状況	外出できていない	外出できている	毎日登校できている	週1~2日欠席	週3日以上欠席	登校できていない	登校できていない
登校状況	SOSサインあり (※1)	SOSサインなし	SOSサインあり	SOSサインあり	SOSサインあり	SOSサインあり	SOSサインあり
状況の詳細	<p>SOSサイン (※1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の不調を訴える ・いつも眠そうである ・やる気がない ・友達とのトラブルが多い ・学習が遅れている ・ルールを守らない など <p>SOSサインの有無を確認</p> <p>SOSの要因を3つの観点から検討</p> <p>SOSの要因 (3つの観点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理面: 「学力・学習」「情緒」「社交性」「集団行動」「自己有用感」「自己肯定感」「関心」「意欲」「過去の経験」 身体・健康面: 「便秘」「食事」「運動」「疾患」「体調不良」「特別な教育的ニーズ」 社会・環境面: 「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」「家庭背景」「地域での人間関係」 						
子供の氏名	いちろう ひろふみ ともふみ	さとし りょう たかお	さとし りょう たかお	さとし りょう たかお	さとし りょう たかお	さとし りょう たかお	さとし りょう たかお

演習2 (例) さとしさんに関するアセスメントの手順

3 アセスメントツールの活用方法について

① SOSサインの有無を確認する

② SOSの要因を3つの観点から検討する

③ どの観点から対応を始めるか検討する

④ 優先的に対応する子供の選定と対応策の検討

さとしさんは、最近特に気になるので優先的に対応していきたいと思っています。(担任)

進路の悩みもあるようなので、進路担当にも相談できるとよいですね。(学年主任)

今月中に安心して学習できる場所を提供することも必要ですね。(教育相談担当)

明日から声掛けや情報共有をしましょう。(教科担任)

管理職への報告も必要ですね。(養護教諭)



演習2 STOP

3 アセスメントツールの活用方法について

状態0 (SOSサインあり) の子供の中で、優先的に対応する子供の選定と対応策の検討をする

優先的に対応する子供の選定と対応策の検討	対応記入欄(いつ・だれが・なにを)		
	【 さとし 】への対応	【 】への対応	【 】への対応
女いつ 1. 明日から 2. 来週までに 3. 6月中 (例) <input type="checkbox"/> 観察・記録 <input type="checkbox"/> 情報共有 <input type="checkbox"/> 教育相談 <input type="checkbox"/> 声掛け <input type="checkbox"/> 仲間づくりを意図した取組 <input type="checkbox"/> 安心できる場所の提供 <input type="checkbox"/> SC、SSWとの連携 <input type="checkbox"/> 支援チームの発足・チーム会議 <input type="checkbox"/> 相談機関紹介	女いつ ☆だれが 1. 担任、教科担任、養護教諭 2. 進路担当、担任、養護教諭 3. 担任、学年主任、養護教諭、教育相談担当	女いつ ☆だれが 1. 声掛けと情報共有を行う。 2. 学習や進路について悩みを聴く。 3. 安心して学習できる場所を提供する。	女いつ ☆だれが ☆なにを

演習3

3 アセスメントツールの活用方法について

状態0 (SOSサインなし) の子供をアセスメントする

状態	状態0		
外出状況	外出できている		
登校状況	毎日登校できている		
状況の詳細	SOSサイン (※1) ・身体の不調を訴える ・いつも眠そうである ・やる気がない ・友達とのトラブルが多い ・学習が遅れている ・ルールを守らない など <small>五十嵐恵子ら編著『中学校で気になる子どものサイン』より</small>		
	SOSサインなし SOSサインの有無を確認		
	SOSの要因を3つの観点から検討 SOSサインあり SOSの要因 (3つの観点から) 心理面 「学力・学習」「情緒」「社交性」「集団行動」「自己有用感」「自己肯定感」「関心」「意欲」「過去の経験」 身体・健康面 「睡眠」「食事」「運動」「疾患」「体調不良」「特別な教育的ニーズ」 社会・環境面 「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」「家庭背景」「地域での人間関係」		
子供の氏名	どの観点から対応を始めるか検討 いろいろ ひろふみ ともふみ	心理面の対応から さとし りょう たかお	社会・環境面の対応から きみ ともこ なおき
		身体・健康面の対応から ひでこ なおみ ようへい	

演習3

3 アセスメントツールの活用方法について

状態0 (SOSサインなし)

- ・毎日登校している
- ・SOSサインはない

対応例

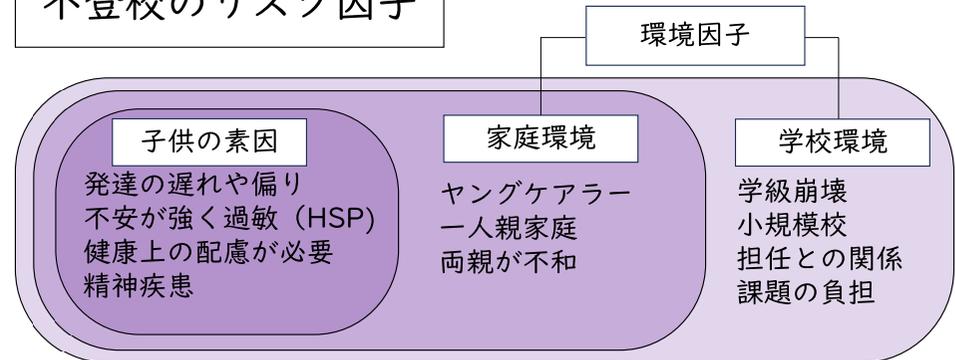
- ・教育相談を行い、子供の心に寄り添って話を聴くという関わりを重ねる。
- ・挨拶、声掛け、励まし、賞賛、対話及び授業や行事等を通じた個と集団への働き掛けを行う。
- ・よいところを褒めたり認めたりすることで自己肯定感を高める。
- ・不登校のリスク因子を考慮して観察を行う。



状態0 (SOSサインなし) の子供の氏名を記入する

状態	状態0	状態1	状態2	状態3	状態4	状態5	状態6
外発状況	毎日登校できている	週1~2日欠席	週3日以上欠席	登校できていない	登校できていない	登校できていない	登校できていない
登校状況	毎日登校できている	週1~2日欠席	週3日以上欠席	登校できていない	登校できていない	登校できていない	登校できていない
状態の概要	<p>SOSサイン (※1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の不調を訴える ・いつも眠そうである ・やる気がない ・友達とのトラブルが多い ・学習が遅れている ・ルールを守らない など <p><small>五十嵐登校率調査「学校で居なくなる子どものサイン」より</small></p> <p>SOSサインの有無を確認</p> <p>SOSサインあり</p> <p>S O S の要因 (3つの観点から)</p> <p>心理面 「学力・学習」「情緒」「社交性」 「集団行動」「自己有用感」 「自己肯定感」「関心」「感情」 「過去の経験」</p> <p>身体・健康面 「睡眠」「食事」「運動」 「病態」「体調不良」 「特別な教育的ニーズ」</p> <p>社会・環境面 「児童生徒間の関係」「教職員との関係」「学校生活」「家族関係」 「家庭背景」「地域での人間関係」</p>	<p>選別や早退が選半分以上ある。</p> <p>保健室や別室を選半分以上利用している。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)には定期的に通うことができている。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由にできている。</p> <p>家で落ち着いて生活ができていない。</p> <p>家でほとんど自覚がでない。</p> <p>家族と関わりができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>	<p>選別や早退が選半分以上ある。</p> <p>保健室や別室を選半分以上利用している。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)には定期的に通うことができている。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由にできている。</p> <p>家で落ち着いて生活ができていない。</p> <p>家でほとんど自覚がでない。</p> <p>家族と関わりができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>	<p>選別や早退が選半分以上ある。</p> <p>保健室や別室を選半分以上利用している。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)には定期的に通うことができている。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由にできている。</p> <p>家で落ち着いて生活ができていない。</p> <p>家でほとんど自覚がでない。</p> <p>家族と関わりができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>	<p>選別や早退が選半分以上ある。</p> <p>保健室や別室を選半分以上利用している。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)には定期的に通うことができている。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由にできている。</p> <p>家で落ち着いて生活ができていない。</p> <p>家でほとんど自覚がでない。</p> <p>家族と関わりができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>	<p>選別や早退が選半分以上ある。</p> <p>保健室や別室を選半分以上利用している。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)には定期的に通うことができている。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由にできている。</p> <p>家で落ち着いて生活ができていない。</p> <p>家でほとんど自覚がでない。</p> <p>家族と関わりができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>	<p>選別や早退が選半分以上ある。</p> <p>保健室や別室を選半分以上利用している。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)には定期的に通うことができている。</p> <p>学校以外の場所(教育支援センター・フリースクール等)へ定期的に通うことは難しいが、外出は比較的自由にできている。</p> <p>家で落ち着いて生活ができていない。</p> <p>家でほとんど自覚がでない。</p> <p>家族と関わりができていない。</p> <p>心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい。</p>
子供の氏名	<p>いちょう ひろふみ ともふみ</p>	かつみ こういち	ちほ るみこ	みる			りな

不登校のリスク因子



ポイント 不登校のリスク因子は常に念頭に置き、
当てはまる子供は特に注意して見守っておきましょう

小柳憲司著『不登校の子どもを支える』pp.62-63を基に作成



ポイント 定期的に、関係する教職員でアセスメントしたり、「チーム学校」で情報共有したりすることで、不登校の未然防止と早期発見・早期対応につなげていきましょう

4 不登校対策・対応に役立つ資料について

アセスメントツールで紹介している資料

資料名	内容	活用方法	活用方法	活用方法	活用方法	活用方法
1	子どもの安心につながる教育相談	教育相談の場	教育相談の場	教育相談の場	教育相談の場	教育相談の場
2	始めよう！支える生徒指導	生徒指導	生徒指導	生徒指導	生徒指導	生徒指導
3	子どもの支援者であるすべての教師のために	教師の支援	教師の支援	教師の支援	教師の支援	教師の支援
4	子どもの安心につながる教育相談	教育相談の場	教育相談の場	教育相談の場	教育相談の場	教育相談の場
5	始めよう！支える生徒指導	生徒指導	生徒指導	生徒指導	生徒指導	生徒指導

① ② ③ ④ ⑤

①「子どもの安心につながる教育相談」(佐賀県教育センター)

- ・ 定期相談において話を聴く際に大切な4つのポイント

子どもの安心につながる教育相談

教育相談は、子どもが安心して話を聴く場です。子どもは、安心して話を聴くことで、自分の気持ちや考えを伝え、問題を解決することができます。

定期相談の4つのポイント

- ① 心に寄り添う
- ② 子どもを見る視点
- ③ カウンセリング技法
- ④ つなげる・つながる

心に寄り添う

- 傾聴から、子ども一人一人に傾聴の姿勢をもち、理解を促すよう心がけましょう。
- 感情が湧き起こると、よく分かっていないことがあることを理解しておか。
- 子どもの言葉が通じない場合は、言葉の壁を取り除くことで、子どもとの信頼関係を築き、気持ちに寄り添える姿勢を取り戻しましょう。

子どもを見る視点

- 相談中は、子どもの目を見つめるのではなく、顔全体を見ながら話を聴くことで、子どもはリラックスして話をすることができます。そして、大切な話のときに子どもの目をしっかり見るようにすると、子どもは真剣に話を聴いてもらっていると感じます。

椅子を自由に動かしていいからね!

座り方を工夫する

正面を外して90度くらいの角度で座ると、視線を自由に変えることができるため、子どもが安心して話をすることができます。子どもの気持ちや姿勢を尊重して、座る位置や距離を決めましょう。

また、先生が腕を組んだり足を組んだりしながら話を聴くことを減圧的に感じる子どももいるため注意しましょう。

表情や視線に気を配る

子どもが安心して話を聴くことができるように、先生も笑顔でリラックスして話を聴くことが大切です。

相談中は、子どもの目を見つめるのではなく、顔全体を見ながら話を聴くことで、子どもはリラックスして話をすることができます。そして、大切な話のときに子どもの目をしっかり見るようにすると、子どもは真剣に話を聴いてもらっていると感じます。



②「始めよう！支える生徒指導」(佐賀県教育センター)

- ・ 子供の自発的・主体的な成長や発達の過程を支えるための教師の働き掛け

始めよう！支える生徒指導

生徒指導は、子どもが安心して話を聴く場です。子どもは、安心して話を聴くことで、自分の気持ちや考えを伝え、問題を解決することができます。

生徒指導の目的

- 子どもの自主的な行動を促す
- 子どもの自主的な行動を促す
- 子どもの自主的な行動を促す

生徒指導のステップ

- Step1: 望ましい行動について共有する
- Step2: 実践して見る
- Step3: 評価・振り返る

Step1: 望ましい行動について共有する

どのような行動が望ましい行動かを子どもと一緒に話し合います。望ましい行動を見つけてあげます。子どもの「望ましい行動」や「今、できている行動」を褒めます。

Step2: 実践して見る

望ましい行動が実践できる場を設けてみます。望ましい行動を実践する機会を設けてみます。子どもの自主的な行動を促します。

Step3: 評価・振り返る

望ましい行動が実践できたかどうかを確認します。子どもの自主的な行動を促します。子どもの自主的な行動を促します。



③「子どもの支援者であるすべての教師のために」(佐賀県教育センター)

- ・ 不登校の子供の状態についての客観的な理解
- ・ 子供への具体的な支援

子どもの支援者であるすべての教師のために

不登校について理解し、子どもが状態を客観的にとらえるために

① 子どもの具体的な状態を把握するために

- 基本的な生活の姿勢
- 互いに支え合う関係の築き
- 相談できる関係構築

② 相談できる関係構築

- 信頼関係の構築
- 信頼関係の構築
- 信頼関係の構築

子どもが活動する場面を多くつくって

活動場面が多くなると、いろいろな場面を見られ、そのうち好きなことや得意なことが見られ、子どもも自信を持って活動できるようになります。

子どもに寄り添う姿勢で

子どもがリラックスしている時間を見守りながら、おしゃべりしたり、一緒に作業をしたりして、子どもを見守りましょう。

いろいろな場面から

家庭で、学校(授業、休み時間、部活動等)、地域で、また、かわつていく人の違い等、いろいろな場面で見守りましょう。

子どもの思いに耳を傾けて

あなたはどのようだったの？ どう思っているの？ など、やさしく聴きながら、「この子はこんな感じなんだ」と思っていたんだ」と感じてもらい、その思いを尊重してあげましょう。

いろいろな人の目から

自分の目だけでなく子どもの目、その子の目でも見てもらうことで、言葉、学校、地域の人の話などにも耳を貸し、自分が見えない部分の子どもを知ることができると。

陣方を覚えて

例えば、「活動的」と思っている子どもが、「活動的」と思っていた、違った角度から見守れないかと考えてみる。



④ 「子どもが欠席したら、どう動く？」 (佐賀県教育センター)

⑤ 「長期欠席・不登校対策スタンダード」 (佐賀県教育委員会)

- ・ 不登校予防のための早期対応のポイント
- ・ 不登校予防の早期対応システム
- ・ 欠席1日目～連続欠席3日目までの具体的な対応例

- ・ 長期欠席や不登校に関する佐賀県の基本的な対策
- ・ 早期発見や早期対応のポイントやプロセス
- ・ 具体的な支援の流れ

子どもが欠席したら、どう動く？

不登校予防のための早期対応を！ 全職員で！

子どもたちの最近の登校の様子「いかに？」が、欠席した子どもたちの状態から「不登校の原因も上から」に調査し対応に必要情報を得る。調査した子どもの状態について学校の早期対応システムを使って関係者を呼び、全職員で協力して実施していきます！

不登校予防のための早期対応のポイント

不登校予防の早期対応システム(例)

欠席1日目

連続欠席2日目

連続欠席3日目

佐賀県教育センター 生徒指導課

連続欠席3日目

【家庭訪問】をして、子供に会いましょう！

「休みが続いたので、心配で顔を見に来たよ！」

◇子供の状況を把握・保護者からの情報提供

【チームでの支援】を始めましょう！

「明日もお休みなら、一緒に家に行きませんか？」

◇登校の支援の方法や役割分担の確認



長期欠席・不登校対策スタンダード(本編)

目次

- 1 長期欠席・不登校の早期対応
- 2 不登校対策の目的
- 3 早期発見・早期対応の仕組み
- 4 早期発見・早期対応のポイント
- 5 早期発見・早期対応の仕組み
- 6 早期発見・早期対応のポイント
- 7 早期発見・早期対応のポイント
- 8 早期発見・早期対応のポイント
- 9 早期発見・早期対応のポイント
- 10 早期発見・早期対応のポイント
- 11 早期発見・早期対応のポイント
- 12 早期発見・早期対応のポイント

佐賀県教育委員会 令和7年4月改訂

状態	登校状況	外出状況
状態0	ほぼ平常に登校している	登校できる
状態1	遅刻・欠席がしばしばある 保健室通いが多い	外出できる
状態2	保健室・別室登校 半分以上欠席している	



SCやSSWと連携する際に役立つ資料

「スクールカウンセラーガイドライン」 (佐賀県教育委員会)

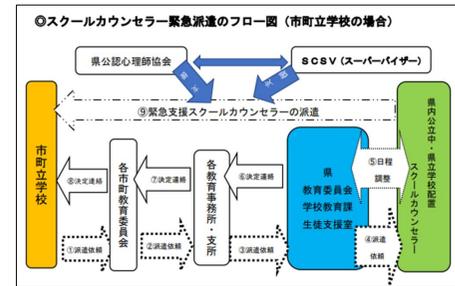
SCやSSWと連携する際に役立つ資料

- ・ SCの効果的な活用
- ・ SCとのカウンセリングの進め方

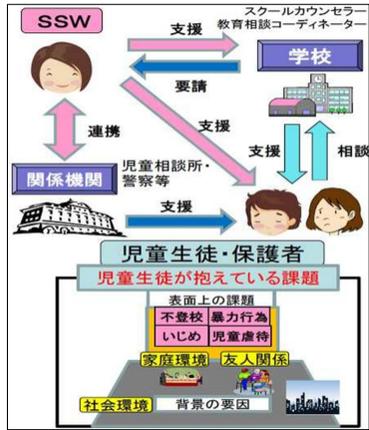


スクールカウンセラーガイドライン

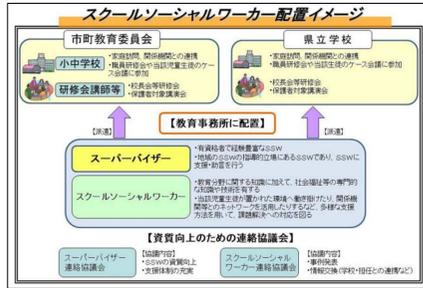
令和7年4月改訂
佐賀県教育委員会
学校教育課



「スクールソーシャルワーカー活用ガイドライン」(佐賀県教育委員会)



- ・ 子供を支える相談体制とSSWの活用
- ・ 具体的な活用事例



「チーム学校」で力を合わせて、

不登校の未然防止と早期発見・早期対応に努めていきましょう

